

ここが聞きたい！

# 教科書問題への「素朴な疑問」

**Q1** すべての教科書はすでに文部科学省の検定に合格しているのだから、どれも学習指導要領に準拠した内容になっているはずなので、何の問題もないのでは？

**A** 検定をパスしても安心できません。

検定はベストの教科書を選ぶ場ではありません。いわば不良品を取りのぞくための仕組みです。しかもそれが十分に機能していないのが実状です。だから、それをパスしたからといって油断はできません。現に検定合格後、教科書の内容があまりにも非常識だとして問題になった例も少なくありませんし、結局、教科書会社が自主申請で訂正したこともあります。そこで不良品を排除し、ベストのものを求めるために、どの教科書を採用するか判断が大切になるのです。

**Q2** 「つくる会」提案の教科書は自国の歴史への愛情をはぐくむことを標榜しているが、それは歴史の負の面を故意に隠した、自虐史観とは逆の意味で偏った内容になっているのでは？

**A** 歴史の光と影を公平に取り上げます。

歴史を単純に善悪で裁こうとする態度は、後世の傲慢以外の何ものでもありません。また、ことがらのよい面だけを誇大に取り上げなければ自国の歴史への愛情を育てることができないという発想も、健康ではないでしょう。「つくる会」は歴史の光と影を公平に取り上げつつ、自然な形で自国への穏やかな愛情を育てることのできる教科書を、子供たちに届けたいと願っているのです。

**Q3** 「つくる会」提案の教科書は中国・韓国などの政府や国民感情を刺激し、外交上のマイナスをもたらすのでは？

**A** 友好の前提は相互の主権尊重です。

「つくる会」提案の教科書は、決して他国をいたづらにおとしめるものではありません。しかも教科書の内容は、各国が自国の未来を担う子供たちにどのような教育をほどこそうと考えているのかにかかわるもので、それぞれの国の独立と主権に直接つながっています。ですから、わが国として他国の教科書の記述にいちいち口をはさむようなことは、これまでしていません。ところが中国や韓国は、わが国の教科書に当然のように干渉してきた経緯があります。これはまことにおかしなことです。もちろん隣国である中・韓両国との友好は望ましいことですが、その場合、お互いに主権を尊重し、不当な干渉は控えるという態度が前提となっていなければならないでしょう。

**Q4** 中国や韓国と対話を深め、共通の歴史教科書を作れば、互いの友好も一層深まるのでは？

**A** アメリカとイギリスに共通の歴史教科書が可能かどうか考えてみて下さい。

歴史教科書は数学や化学などの教科書とは性格が違います。仲の良い友人と一緒に旅行に出ても、それぞれ印象に残る場所が違ったり、その時の思い出は各自、別のものになります。歴史教科書は、いわば国民共通の記憶を基礎とするもので、各国の自己イメージのよりどころとなります。だから、国家や国民という共同性が失われない限り、他国に完全に迎合するか、他国を完全に同調させるといった異常なケースを除き、他国と共通の内容を望むのは無理です。そもそも、日本以外の中国と韓国、アメリカとイギリスなどの間に共通の歴史教科書が可能かどうか考えてみれば、答えは容易に出るはずですよ。

**Q5** 「つくる会」の活動はルールを逸脱した特定教科書の不当な宣伝では？

**A** 適正かつ公正な教科書採択を求めています。

教科書の宣伝についてはさまざまな規制があります。具体的には①独占禁止法に基づくもの、②文部科学省の行政指導によるもの、③教科書業界の自主規制の三種類です。これらはいずれも教科書会社や教科書の編著者などを対象とした規制で、ボランティア団体である「つくる会」とは関係ありません。しかも、「つくる会」が進めているのは、教科書が各地の教育委員会の見識と責任において適正かつ公正に採択されるための取り組みです。だからむしろ法的ルールの本来の趣旨を十分に生かそうとするものです。

**Q6** なぜ教科書採択の権限が教育委員会に与えられているのか？

**A** 教育について地域の住民を代表するのは教育委員だからです。

時おり教科書の採択について、専門の知識を持つ教師にまかせればよいという声を聞きます。しかし、地域の教育のあり方は住民全体にとって重大な意味をもっているため、専門家の意見に耳を傾けつつ、住民の代表によって民主的にコントロールされなければなりません。教育委員は選挙で選ばれた自治体の首長が議会の同意を得て任命するものです。しかし、教師は保護者や住民によって民主的に選出されたものではありません。さらに地域によっては、偏ったイデオロギーにこり固まった教師や、特定の教科書会社と癒着した教師が強い影響力をふるっている現実があります。ですから、教師の意見を参考にしながら、最終的には教育委員の見識と責任において教科書の採択を行う現行のルールは、制度として妥当なものと言えるでしょう。ただ現在、それがルール通り運用されていないので、この点の是正が目下の課題です。

**Q7** 少数の教育委員が全教科の全社の膨大な冊数の教科書の内容を一つ一つ吟味検討して、どれが最適かを判断するのは、建前の上では理想的でも、実際には無理ではないか？

**A** 公平的確な報告があれば可能です。

採択地区の教育委員会の下には、教科書の調査・研究のために選定委員会や調査員がおかれています。そこから各教科書についての公平的確な報告が提出されてくれば、教育委員が自らの見識によって判断することは決して困難ではないでしょう。これまでは、教科書を一、二種類に絞り込んだり、ランクづけしたものが教育委員会に報告され、事実上使用すべき教科書の種類が決定されるという悪しき慣行によって、教育委員会の責任と権限が曖昧化してきました。このような現状を文部科学省も早くから問題視し、是正の指導に乗り出しています。特に社会や国語など国民としての教養の骨格をなす教科については、教育委員の成熟した判断が大切になります。

**Q8** 教科書が改善されても、それを教える教師が変わらなければ意味がないのでは？

**A** 教科書の是正は教師の意識改革の第一歩です。

教育の場において教師がもつ意味はたしかに絶大です。しかし、市民運動として教師の意識改革に直接関わるのは困難です。そこで「つくる会」は十分に工夫された教師用指導書を教科書とセットで用意することで、授業の改善に役立てたいと扶桑社に要望しました。さらに、教科書を一新し、それを支持する圧倒的な国民の声を教育現場に届けることで、教師が変わってゆく第一歩を築くことができるのではないのでしょうか。

# 奪われた歴史を 取り戻しましょう!!

こんな素晴らしい『新しい歴史教科書』が採択されなかったのは、左翼と過激派による脅迫や妨害のせいです。時限発火装置による放火というテロ行為さえ行われました。これらは一般市民の良識や願いを踏みにじる実に卑劣な行為です。また、中・韓両国の露骨な内政干渉もありました。これは、中国・瀋陽における主権侵害事件と全く同じです。こうした内外の不当な圧力に負けてはなりません。

イデオロギーを離れて、自分の子供に与えたい教科書はどれかと問われれば、おのずとその内容から新しい歴史教科書という結論になります。それは同時に、わが国の奪われた歴史を取り戻す道でもあります。

明日の日本を担う子供たちに、最良の教科書を渡すために、皆様のお力をお貸しください。



「親日派のための弁明」金完燮氏を迎えてのつくる会第21回シンポ風景（於：東京・杉並公会堂）



毎回多くの人に参加している。



平成14年4月開講、「つくる会」歴史・文化塾



歴史・文化に対する愛情を深める活動